

鶴見半島及び大島地域のコケ植物・地衣類群落

調査地域は、鶴見半島と大島を主に、北側の臼杵から津久見と南側の蒲江にかけての入り江と岬を加えました。これには、前回の佐賀関半島の調査で、特に尾根部の岩や樹皮に着生する地衣類群落が貧弱であることを重視したからです。その結果、豊後水道に面した岬の尾根部に共通することが分かりました。

海岸岩上の葉状地衣ウチキクロボシゴケ群落

特に良好な群落は鶴見地区の猿鳴でした。ここでは海食崖の北側斜面に葉状地衣ウチキクロボシゴケが全体に広がっています。この種は、内陸部にも生育しますが、海岸の岩上では代表的な地衣類です。これに、樹枝状地衣ハマカラタチゴケやイソカラタチゴケなどの種が結びつき海岸性の地衣群落を形成しています。

一方、大島の地下の岬では、南斜面に日当たりを好む葉状地衣ヤマキクバゴケが、また、他地域では、上浦地区の岬でハマカラタチゴケが葉状地衣チヂレテリハゴケと共存していました。



猿鳴の海食崖



海食崖のコケ植物・地衣類群落（猿鳴）



ウチキクロボシゴケ



ハマカラタチゴケ



イソカラタチゴケ

社寺等に生育する葉状地衣群落

米水津地区の神社の樹皮や石垣にはコフキヂリナリアに加えヒカゲウチキウメノキゴケ、キウラゲジゲジゴケやクズレウチキウメノキゴケなど大気汚染に敏感とされている大型の葉状地衣が良好に生育を保っていました。同様の群落は半島の入江や集落一帯において、種の広がりや数には幾分貧弱傾向ながら見られました。



キウラゲジゲジゴケ

尾根部の貧弱な地衣類群落

鶴見半島先端部の砲台跡周辺の林内には大気汚染に比較的耐性をもつコフキヂリナリアが小斑状に一種のみ生育しており、一帯の半島にも共通していました。



日当たりのよい海食崖の地衣類群落（大島）



ヤマキクバゴケ



石垣のコケ植物・地衣類群落（米水津）



コフキヂリナリア